

農協職員による養蚕指導の役割



元JA信州うえだ養蚕技術員

和田 一男様

養蚕は、子供のころから身近にある産業でした。仕事も、昭和54年（47年前）に塩田農協に養蚕技術員として入社し、平成5年まで、養蚕技術員の肩書きがついていました。職種は変わりましたが、農協という職場で45年勤めてきました。

今回、和田家の養蚕と養蚕技術員について、顧みることができました。農協の養蚕技術員としての作業や指導、関係機関とのつながりをお話できればと思います。

現在は繭価が下がり養蚕農家の戸数も減っています。

養蚕農家数

	昭和55年	平成4年	令和7年
上田市 (塩田)	746 (487)	58 (44)	0 (0)
上小合計	1426	118	0

現在（令和7年） 全国

養蚕農家	1 1 3 戸（長野県で5件）
稚蚕共同飼育所	2 か所
種屋	5 社
製糸工場	7 施設

指導の内容は以下のとおりです。1週間泊まりこみの稚蚕共同飼育は大変でしたが、県や国とのつながりもあり、指導体制は他の技術員とは違っていたと思います。

農協職員の養蚕指導とは（インターネットより）

まず、昭和期の長野県は全国有数の養蚕県として知られ、生糸は県経済を支える重要な産業であった。農家の現金収入の大部分を養蚕が占める地域も多く、品質の良い繭を安定して生産することが農家経営の鍵となっていた。そのため、農業協同組合（農協）の職員は、蚕種や飼料の供給だけでなく、養蚕技術の普及や指導を担う重要な役割を果たした。

農協職員の仕事の中でも特に重要であったのが、養蚕指導飼育である。指導飼育とは、農協の職員がモデルとなる飼育を実践し、その技術を地域の養蚕農家へ普及する取り組みである。当時は気温や湿度の管理、桑葉の与

え方、消毒方法などが繭の品質や収量を左右していたため、経験にだけ頼るのではなく、科学的な飼育方法を農家へ伝えることが求められた。

養蚕期になると農協職員は各農家を巡回し、蚕の生育状況を観察しながら具体的な助言を行った。例えば、桑葉の鮮度や給桑の量、飼育室の温湿度管理、換気方法、病気の予防対策などについて細かく指導した。蚕は高温多湿や急激な気温変化に弱く、微細な管理の違いが収繭量に大きく影響するため、職員は日々農家と連絡を取り合いながら適切な飼育方法を指導した。

また、蚕病の予防も重要な役割であった。微粒子病や軟化病などの伝染病が発生すると、多くの蚕が死亡し、農家に大きな損害を与えた。そのため農協職員は飼育前の消毒方法や飼育器具の衛生管理を徹底させるとともに、病気が疑われる場合には速やかに検査を行い、感染拡大を防ぐための対策を指導した。こうした衛生管理の徹底は、地域全体の繭品質向上にもつながった。

さらに、農協職員は新品種の導入や飼育技術の改良にも積極的に取り組んだ。長野県では蚕種製造や試験研究機関との連携が盛んであり、新しい蚕品種や人工飼料、共同飼育施設などの導入が進められた。農協職員は試験飼育を実施し、その成果を講習会や実演会で農家へ紹介した。実際に指導飼育を公開することで、農家は新しい技術の効果を理解しやすくなり、地域全体の技術向上につながった。

昭和30年代から40年代にかけては、養蚕農家の規模拡大や省力化も課題となった。農協職員は共同飼育施設の利用促進や機械化の導入、効率的な桑園管理についても指導を行い、労働力不足への対応を支援した。また、繭の共同出荷や販売を通じて価格の安定を図り、農家所得の向上にも貢献した。生産から販売までを一体的に支援することが農協の大きな役割であった。

一方で、昭和40年代後半以降になると化学繊維の普及や生糸価格の低迷、海外からの安価な生糸輸入などにより、養蚕業は次第に縮小していった。養蚕農家は減少し、農協職員の業務も果樹や野菜など他の農業部門へ移行するようになった。

- 司 会 上條和宏君
●斉 唱 「我等の生業」
●ゲ ス ト 和田一男様(元JA信州うえだ養蚕技術員)
●ラッキー賞 久保友幸君(季節のアレンジ花)
小林正人君(蓑輪君より新潟産の新米)

蓑輪「いつもこの時期に食べに行きます。昨年来より安いとのこと」



■会長挨拶

田守 正彦 会長



皆さん、こんにちは。

今日は、最近各地で騒がれている「雨」の話をしたと思います。

上田は、もともと全国的に見ても雨の少ない地域です。そこで、この上田アメダスの直近5年間、1月から7月までの降水量を調べてみました。気象庁では、上田市古里付近に「上田地域気象観測所」、いわゆるアメダスを設置し降水量や気温などを観測しています。

2022年(蓑輪年度) 606.5ミリ/2023年(母袋年度) 570ミリ/2024年(上原年度) 726ミリ/2025年(渡辺年度) 508.5ミリ/そして今年2026年(山寺年度)は456.5ミリです。直近5年間では今年が最も少なくなっています。今年の上田でも6月には1か月だけで203.5ミリ降りました。それが7月になると57.5ミリです。

ところが、「今年は雨が少ないから、水害の心配も少ない」と考えてよいかというと、決してそうではありません。降るときにはまとまって降り、降らないときにはなかなか降らない。雨の降り方に大きな偏りがあります。そして、つい先日(8月)には、千葉県で大規模な豪雨災害が発生しました。8月13日から大雨により、多くの市町村で災害救助法が適用され、住宅や道路などにも大きな被害が出ました。この千葉の豪雨を見て言えるのは感じるのは、年間の雨の「量」が少ないからといって、安心できるわけではないということです。

長野県でも、2019年(小田中年度)の台風19号、令和元年東日本台風で、千曲川が大きな被害を受けました。私たちにとって、水害は決して遠い地域だけの話ではありません。

大切なのは、「一年間に何ミリ降ったか」という合計だけではなく、いつ、どこで、どのように降るかということなのだと思います。これは、私たちの仕事や人との付き合いにも、少し似ているように感じます。何回例

会に出席したか、何人の方と会ったか。もちろん数字も大切です。しかし、それ以上に、その時間をどう使ったのか、誰とどんな話をしたのか、そこからどんな関係が生まれたのか。大切なのは、やはり「密度」ではないでしょうか。雨も、人との付き合いも、ただ量が多ければいいというものではありません。必要なときに、必要なところへ、ちょうどよく届く。そんな雨であってほしいですし、私たちの人との関わり方も、そうありがたいものです。

今年は上田では雨の少ない夏ですが、一方では集中豪雨がいつ、どこで起きてもおかしくありません。空を見上げながら、自然への備えと、人とのつながりの大切さを、改めて考えてみたいと思います。

本日もよろしく願いいたします。

■幹事報告

水出 博史 幹事

- ・R財団、米山奨学会より7月末現在の寄付状況が届く。
- ・出田行徳ガバナーノミニーより、2028-29年度の地区運営にあたり、地区大会実行委員長などの協力依頼が届く。
- ・上田青年会議所より認証65周年記念事業、記念式典、祝賀会へのご招待状が届く。

9月22日(火・祝) 別所線～上田東急REIホテル

- ・丸子RCよりクラブ計画書をいただく。
- ・中野RCより例会場変更のお知らせが届く。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	52	47	19	—	59.57%
前々回	52	49	16	8	83.67%

ニコニコBOX

(敬称略)

上原、上條、工藤、久保、倉島、神津、後藤、小林
佐藤、春原、関、滝澤、竹花、玉井、田守、塚田
手塚(達)、増田、丸山、水出、蓑輪、村上、母袋(卓)
柳澤亨、柳澤誠、山寺

※工藤 恒君/和田一男様、ようこそお越しくださいました。スピーチ楽しみにしています。

※蓑輪佳明君/養蚕技術員 和田一男様ようこそ。

※後藤正直君/本日、桑の剪定をしていたら野生の蚕が葉っぱをかじっていました。

※山寺高太郎君/気温37℃、38℃…。毎日が発熱外来にいるみたい。

※柳澤 誠君/酷暑ですが、空は何となく秋の気配がしてきています。あともう少しの辛抱です。

※上原 達君/先日、グループ2023-24年度会長同期会を開催。西入G補佐もお元気でした。

※久保友幸君/食品ロス削減にご協力有難うございます。

本日の金額/33,000円 累計/275,000円